

令和4年 8月30日

川崎市議会議長 橋本 勝 様

多摩区
南生田自治会
会員

市営バス運行ルート1本化に関する請願

請願の要旨

現在、南生田自治会管内を運行している市営バスのルートは、時間帯別に「南生田1、2丁目経由」と「南生田保育園経由」に分かれています。

これを1本化して、全て「南生田1、2丁目経由」にしてほしい。

請願の理由

南生田地区は本市の区画整理、分譲後50年近く経過し、地域住民の高齢化が進み運転免許証を自主返納する人も出てきて、交通にバスを利用する人が徐々に増えてきています。その中で、時間帯により別紙地図実線を通過するバス便がないことに不便を感じ、地域住民の中からバス運行を1本化して、全て「南生田1、2丁目経由」にしてほしいとの要望が多く寄せられています。

このような状況の中、南生田自治会として全会員を対象にアンケート調査を令和4年1月に実施いたしました。

南生田地区は丘陵地で坂が多く「南生田1、2丁目経由」のバスがない時間帯に南生田保育園前から南生田1丁目までの坂道（距離350m、高低差20m）を歩くには高齢者には体力的にかなりきついです。

南生田1丁目バス停の近くに土屋医院があります。この病院は南生田地区でただ1箇所のクリニックです。聞き取り調査によると平日で70～80人、ワクチ

ン接種時は100人超の通院客があるそうです。「南生田1、2丁目経由」のバスがない時間帯があり、通院に不便を感じている人も多数いると思われます。

時間帯により運行ルートが変わることに対し、間違いやすい、利用しづらいので1本化してほしいとの意見も多数ありました。

南生田1丁目バス停より坂道を少し上った所に、2～3年前に「結」ケアセンターいくたという半官半民の福祉施設ができました。利用者が今少し少ないようで、こども食堂、パン販売、喫茶室等いろいろ工夫、アピールされています。その中でバス便を利用できない時間帯があり、バスルートが1本化すればもう少し便利になって、地域住民の施設利用が広がることが望まれます。

バス運行ルートが時間帯により、「南生田1、2丁目経由」と別紙地図破線に分かれたことについては、40年ほど前、南生田地区に市営バスが運行されることになったとき、全時間帯「南生田1、2丁目経由」とする案に対し、沿線ルートの一部住民からバスの排気ガスと騒音を理由に反対する人が出てきて、賛成する人と反対する人の間で対立があり、市営バス側の妥協案として通勤時間帯と帰宅時間帯を「南生田1、2丁目経由」とし、それ以外の時間帯を「南生田保育園前経由」とすることになったと聞いています。

しかし、当時と現在とでは状況が大きく異なっている点があります。それは、地域住民の高齢化が進んでいることです。30～40年前に南生田に移り住んだ人たちは、その当時若くて元気だったのに、現在は70～80歳代の高齢者になっています。バスのルートが1本化すれば、高齢者を始めとする地域住民の生活が便利になると思われます。

「南生田1、2丁目経由」のバスルートは、両サイドに歩道を完備した道路幅10mの南生田地区の幹線道路です。現在は通行車両も増え、日中1時間当たり数百台の交通量があります。その中で1時間当たり4～5台の運行するバスから出る騒音、排気ガスの影響は軽微なものと考えています。現に回収したアンケートの中にも、明確にバスの騒音、排気ガスを理由とした反対意見はありませんでした。

アンケートで反対の意思表示をした人の50%強は「南生田保育園前」のバス停周辺の地域の人たちで、「南生田保育園前」のバス停が無くなることへの不満と思われます。しかし、100～150mほど離れた所に、「南生田小学校前」、「南生

田 2 丁目」というバス停があり、そこを利用すればそれほど不便にはならないと思われま

す。今回のバスルートの 1 本化による運行コストのアップはゼロに近いと思われま

す。また、南生田地区に隣接する、かりがね台地区（西生田）、長沢地区の一部住民も「南生田 1、2 丁目経由」のバスを利用している人がいることから、運行ルートが 1 本化すればバスの利用客の増加が少し期待できるのではないかと

思われます。

先日、南生田保育園の施設長（園長）と面会し、状況を説明し市営バスを利用している園児の送迎に関して、仮に「南生田保育園前」のバス停が無くなった場合、100m ほど離れた「南生田小学校前」のバス停を利用してもらうようお願いしてきました。保育園側の説明によると、園児（定員 90 名）の送迎に市営バスを利用する申請数は 18 名とのこと

紹介議員

各	務	雅	彦
井	口	真	美
田	村	伸	一郎
露	木	明	美
三	宅	隆	介
月	本	琢	也
添	田		勝
松	川	正	二郎
大	西	い	づみ